

日本地球電気磁気学会会報(第15号)

1964年12月10日

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生町3

東京大学理学部地球物理学教室内

電話(812)2111 内線6476

振替 東京 4860

学会誌編集出版状況

本会報に添えまして、昭和39年度学会会費を納入されました会員各位には、J. G. G. 誌第XVI巻第3号をお届けしております。次号第16巻第4号は目下編集中であります。また第17巻も引続きできるだけ早く刊行するように致しますので、皆様方の研究成果をたくさんお寄せ下さい。春秋の学会の際に講演をされただけでは研究成果の *priority* は保てません。論文として発表してこそはじめて *priority* を保つことができるのですから、皆様方の研究成果をなるべく早くまとめられて、投稿していただくことを切望しております。

本年は会誌発行が順調に進みましたことは慶賀の至りです。

今後とも会員各位の御支援をお願い致します。

外国との刊行物交換情況報告

当事務所ではJ. G. G. 誌と交換に海外研究機関から寄せられる雑誌・観測資料・研究報告などがかなりあります。それらを一つ一つ会員の皆様に御報告致してはおりませんが、できるだけ会員各位の御利用の便をはかりたいと思えます。

当事務所での交換物保管は、場所がせまいためと人手が足りませんために完全ではありません。出版物によりましては、東京大学理学部地球物理学教室内に保管しておきますよりは、本学会会員が所屬されている適当な機

(2)

関に置いておいた方が利用度が高いものもあります。比較的量がかさむものでそのような種類のものとしては(順序不同)

Nuclear Science Abstract (米国 AEC 発行),

ベルギー国立気象台研究報告

Aeromagnetic maps (カナダ *Geological Survey*),

気象学報, 地球物理学報, 科学通報(中国)

フランス CNET 出版物, *IL NUOVO CIMENTO*

Revista de Geofisica, イスタジブール大学報告

Monthly Weather Review,

カリフォルニア大学 *Bulletin of the Seismographic Stations*

ユタ *Geological and Mineralogical Survey* 出版物

Philippine Journal of Science,

Proceedings of the Cambridge Philosophical Society

などがあります。これらの出版物のいずれかを御自分のところまたは御自分が所属される機関で保管されたい御希望がありましたら、当学会事務所まで御一報下さい。保管していただき、会員の利用の便をはかっていただけますれば幸甚です。

国際会議報告

本年 11 月 16~20 日に米国ピッツバーグ市で *IAGA Symposium on Magnetism of the Earth's Interior* が開かれ、引き続き 11 月 23~25 日に *Second Benedum Symposium on Earth Magnetism* が同市で開かれました。この会議に出席されました本学会会員の方々からお知らせいただいた情報のごく一部を、皆様の御参考のためにお知らせ致します。詳しいことは出席されたの方々からお聞き下さい。

古地磁気学の分野では、チェッコスロヴァキヤの Bucha が過去の地球磁場の強さについて、現在を 1 として、2000 年前は 1.5、4000 年前は 1、6000 年前は 0.6 ぐらいであることを示し、東大核研小田稔氏が C_{14}/C_{12} 比から考えておられるものと一致するそうです。地質時代の地球磁場の逆転については、 $(1.0 \pm 0.05) - (2.5 \pm 0.2) \times 10^6$ 年及び $(3.4 \pm 0.1) \times 10^6$ 年以前では地球磁場は現在のものに比して逆転していたらしいとのデー

タが増しました。しかし 1.9×10^6 年あたりのところに現在と同じ方向、 3.1×10^6 年のところに逆転を示唆する資料があり、それが本物であるかどうか問題になっています。

地球内部の電磁現象を論ずる研究者がこれほど沢山一堂に会したことはかつてなかった由です。

地球外部に原因を有する地磁気変化研究では、新しい観測資料を用いて求めた S_q や L 電流系、IMP による地球極側遠くでの磁場分布 (37 earth radii まで行っても *magnetosphere* はまだ閉じていない)、中低緯度における S_q 電流系が存在する高さの推定、極光帯から伝播してくる *infrasonic wave* の研究、地球超高層大気中における中性分子・原子の分布を知る目的での *dayglow* の研究などいろいろと興味深い結果が出されたとのことであります。

地球磁気変動現象を更に深く研究してゆくことにより、いろいろと重要な問題を解決してゆくことができるので、我が国の研究者も我が国のよい伝統を守って地道にこの方面の問題を掘り下げてゆく必要があります。

なお、上記国際会議では、渡米された会員はもとより、かつて私達の学会で屢々講演をされ、その後長期にわたって米國に滞在しておられる本学会会員の活躍がめざましかったことは勿論であります。

昭和39年度 学会賛助会員

下記の方々から本年度賛助会員になられる申出がありました。

田中 幾治郎氏 (文叢社取締役)	(福島会員紹介)
三 削田 静平氏 (協立社社長)	(福島会員紹介)
沢 間 秀 雄氏 (光文堂代表取締役)	(福島会員紹介)

学会の財政を少しでも助けるため、賛助会員をできるだけ多く紹介して下さるよう会員各位にお願い申し上げます。

(4)

学会事務局からのお知らせ

第5回宇宙技術科学国際会議(1963年 於東京)論文集が出版されました。外国75, 国内47篇の論文を集録したB5版オフセット印刷・上製本1200頁で定価10,000^円です。一般市販500部という少部数ですので, 出版元アグネ社(東京都千代田区一番町10, Tel. 262-7231, 振替98975)に希望者は早く申込んで下さいとの連絡がありました。

明年に入りますと, 学会役員の改選などあり, そのためにも会員名簿を編成し直したいと思っております。

貴会員に当方から会誌・会報などをさしあげます際の宛名の誤り, 所属変更などあります場合, また近々所属変更予定がおありの方々は, この際, 学会事務局に御一報しておいていただければ幸甚に存じます。

よろしくお願い致します。

石井 千尋 会員(元気象研究所高層物理研究部長)は現在, 神奈川大学教授として横浜市神奈川区六角橋町神奈川大学工学部物理研究室に勤務されております。自宅は文京区丸山町21

近藤 一郎 会員(名古屋大学理学部)はシカゴ大学での二年間の研究を終えられて, 10月19日帰国されました。

郷 鉄夫 会員はオランダ国ユトレヒト天文台において一年間研究に従事される予定で, 11月中旬に出発されました。